

平成26年度 学校評価総括表

奈良県立平城高等学校

学校教育目標	自他を敬愛し、より高い目標に努力する品格のある生徒を育成する。			校訓	総合評価	
学校経営方針	生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、将来にわたる自己実現を援助する教育に努める。			◇創造 新しくものを創り出すこと ◇敬愛 尊敬し、親しみの心をもつこと ◇堅忍 つらいことによく耐え忍ぶこと 〈文武一貫教育〉を目指し、推進することを通じて、校訓の具現化を図る。	B ⁺	
スロガン	Success For All 〈成功〉に向かって、真摯に努力を続ける生徒を全面的に指導・援助する教育を進める)					
目指す学校像	新たな歴史を創造し、自校の教育と生徒の姿を誇れる学校					
目指す生徒像	競い合う場面に打ち勝ち、最後まで諦めない心の強い生徒					
目指す教師像	今年度の重点目標を深く理解し、学校教育目標の実現に積極的に取り組む教師					
前年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標				
[成果] ・基本的生活習慣及び規律ある学校生活の確立 ・自己の目標達成のための進路選択能力を伸長 [課題] ・主体的な学習活動 ・進路開発意識の向上 ・社会性及び国際性の育成	主体的な学習習慣の確立	生徒が主体的に取り組む授業の改善や家庭での学習習慣の定着				
	より高い次元での進路開発	進路情報の提供や個別サポートによる、自分の在り方生き方を見据えた進路選択の実現				
	「地域と共にある学校づくり」の取組による社会性・国際性の育成	地域との協働による「平城高校コンソーシアム」構築による社会性・国際性の育成				
教育活動	評価項目	具体的方策・評価指標等	評価 総括	成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価他
学習指導	主体的な学習習慣の確立	・個別学習状況DATAにより、家庭学習状況を観察し、年2回程度、家庭学習を点検するウィークを設けることで、家庭での学習習慣の定着を図る。 成果指標90%	B	年3回の家庭学習点検週間を実施した。個別学習状況DATAにより、学習習慣の振り返りをさせることができた。	学習習慣の定着が課題。学習状況の提示方法を工夫する。	家庭学習点検週間の地道な取組を評価する。フィードバックの具体的な方法を工夫するとよい。
生徒指導	規範意識・公共心の向上	・規律と責任を自覚し、公共心の向上を図るため、LHRや各種集会を毎学期1回以上実施するとともに、地域での活動回数を年間1人2.5回以上を確保する。 成果指標80%	A	重大な問題行動等もなく、学期毎の全校集会を通して、規範意識は向上してきている。地域での活動は不足。	地域協働と連携したあいさつ運動等(登下校時)を工夫する。	外部から見ても平城高校生の姿に好印象を受けている。改善されている様子が伺える。
進路指導	より高い次元での進路開発	・1年次から進路説明会やLHR等、進路意識を高める機会を年間3回以上実施し、大幅な進路実績の向上を目指す。国公立大学100名以上及び主な私立大 成果指標80%	A	文理選択、学部学科研究、受験先決定と各学年の重点目標に沿って取り組んだ。国公立大学合格63名(前期発表まで)	3年間を視野に入れた計画的な取組の推進。大学研究、実力養成講座の充実。	進路実現を支援する取組が計画的に行われており、進学実績も上がっている。早期からの取組の積み上げが重要。
特別活動	部活動・生徒会活動の活性化	・部活動参加生徒90%をキープし、心身の発達に努めるとともに、県内ベスト4以上が10部以上を目指す。また、生徒会活動支持率80%を目指す。 学校生活満足度90%	B	県ベスト4以上に10部入ったことは評価できる。その一方で部活参加率は80%台に低下した。	広報活動も含め、部活の意義や魅力を伝えていく。	生徒の多様なニーズに対応するボランティアなどの部局を開設すれば、部活動参加率はさらに高まる。
人権教育	参加型LHRの充実	・人権教育年間計画における普遍的課題及び個別の課題に関わる内容を整理し、生徒の参加型活動を年間3回以上取り入れ、人権意識の向上を図る。 成果指標70%	A	全校人権講演会や各人権HRにおいて、生徒の参加型活動を年間3回以上取り入れることができ、人権意識の向上を図ることができた。	新しい教材の研究・開発に努める。	学年毎に学習内容を工夫し、新たな視点での生徒参加型の人権教育が実践されていることは評価できる。
教育相談	SCを活用した教育相談	・いじめの未然防止をはじめ、SCを活用した研修を年間2回程度実施するとともに、新たに大学教授等からなる平城高校生徒支援チームを機動させる。 成果指標70%	B	SCを活用した学年研修を1回実施した。またカウンセリングを生徒、保護者また教員がたくさん利用した。	大学教授等からなる平城高校生徒支援チームを機動させる。	教育相談においてスクールカウンセラーが果たす役割は大きい。継続配置が望まれるとともに、周知方法を工夫することが大切。
環境美化	校内外の環境美化活動の推進	・全校環境美化活動を年間2回程度実施し、美化意識の向上に努めるとともに、校外美化について、年間1回以上保護者、地域と協働した取組を推進する。 成果指標80%	B	校内美化においては生徒の意識は高く、評価できる。校外については保護者、地域と協働して取り組むには難しい。	保護者、地域を取り込んだ活動をするための方策を考える。	平城高校の学習環境は美しく、よく整備されている。地域と共に生徒の美化意識を向上させる取組を進める。
情報発信	学校理解の促進と説明責任	・地域に支えられ存立する学校として、学校HP等を活用した教育活動等を周知し、地域から愛され、信頼される学校及び生徒づくりを目指す。 成果指標80%	A	教育活動や地域との連携をHPを通して随時発信することができた。今後は発信する内容等を考察する必要がある。	新しいHPの運用により、各分掌と連携して情報発信を行う。	ホームページで情報が逐次発信され、学校の様子がよく分かる。さらに更新回数を増やすことで説明責任の一端を担える。
地域協働	地域と共にある学校づくり	・特色ある学校を創造し、平城生を育成するため、「平城高校コンソーシアム」協議会(仮称)を年間2回程度開催し、地域協働による学校づくりを推進する。 成果指標80%	A	生徒が中心となって、小・中・高校生規範意識醸成事業等の地域と協働する活動に取り組むことができた。	生徒の活動の成果を社会性・国際性の育成につながる。	地域と共にある学校づくりの取組が積極的に行われている。引き続き地域や保護者を巻き込んだ取組が望まれる。